第170号 令和6年(2024年)5月15日発行

公益社団法人 会報 日本学生陸上競技連合 安報

向上と進展



[発行所] 公益社団法人 日本学生陸上競技連合 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階 TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

2024年度を迎えて

会長 松本 正之

新しい年度が始まり、皆様におかれましては心持ちも新たにシーズンをお迎えのことと思います。また、平素より日本学生陸上競技連合の運営に対して格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年度は関係者の皆様のお力添えにより、コロナ禍前のような活気を取り戻した競技会を開催することができました。

例えば、9月に行った天皇賜杯第92回日本学生陸上競技 対校選手権大会では名物でもある集団応援が復活し、各大 学の威信を懸けた熱い戦いがより一層の盛り上がりを見せ ました。また秋の駅伝大会では、沿道に駆け付けた多くの観 客の姿や競技場のバックスタンドにおいて各チームの応援 団が精一杯応援する姿など、本来の姿が戻ってきたことを 印象付ける光景が見られました。

8月には、2021年より延期となっていたFISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)が開催され、日本代表選手たちが日本の学生陸上の力を世界に示してくれました。また、2月には世界大学クロスカントリー選手権大会(オマーン・マスカット)への派遣も行うなど、国際舞台への派遣事業も再開することができた1年となりました。

さて、今年はパリ五輪、来年には東京世界陸上の開催が 予定されております。学生競技者諸君には、それぞれの目標 に向かって日々の努力を惜しむことなく、飛躍の1年となる ような活躍を期待します。

本年度の本連合主催競技会は、6月14日(金)~16日(日) に開催する2024日本学生陸上競技個人選手権大会から始まり、7月20日(土)には昨年から日本GPシリーズに加入した秩父宮賜杯第64回実業団・学生対抗陸上競技大会を開催いたします。

天皇賜杯第93回日本学生陸上競技対校選手権大会は、 9月19日(木)~22日(日)にUvanceとどろきスタジアムby Fujitsu (神奈川・川崎市) にて開催いたします。

秋の駅伝シーズンは、10月の出雲全日本大学選抜駅伝競走(島根・出雲市)からスタートし、同月の全日本大学女子駅伝対校選手権大会(宮城・仙台市)、11月の全日本大学駅伝対校選手権大会(愛知・名古屋市~三重・伊勢市)、そして12月の全日本大学女子選抜駅伝競走(静岡・富士宮市~富士市)と、それぞれ日本の歴史にゆかりの深い走路を駆け抜け、日本の秋から年の瀬を彩ります。

これらの駅伝は、各開催地でご協力いただく地元の皆様とともにレースの魅力を発信し、全国のテレビ中継や配信を通じて全国の学生駅伝ファンを惹きつけるものと思います。

そして、駅伝シーズンが終わると、2月には男子の学生 ハーフマラソン選手権(香川・丸亀市)、3月には女子の学 生ハーフマラソン選手権(島根・松江市)、学生20km競歩選 手権(石川・能美市)と続きます。特に、男子のハーフマラ ソン選手権は本年度より国内屈指の高速コースである香川 丸亀国際ハーフマラソンと併催という形で開催させていた だきます。

さらに、これらの全国大会と並行して、各地区学連や各大学においてもそれぞれの主催大会や全国大会の予選を兼ねた大会が開催されます。そのすべての大会で、選手のみなさんが日頃の鍛錬の成果を遺憾なく発揮し、それぞれの目標が達成されることを願っています。また数多くの自己記録や学生記録、日本記録が新たに誕生することを期待しております。

選手のみなさんにおいては、陸上競技を通じて、「向上と進展」の旗の下、一人ひとりが陸上競技者としてだけでなく学生として一層成長できる充実の一年となるよう願っています。

最後になりますが、学生陸上競技を支えていただいている関係の皆さまには、一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

あいさつ 1

公益社団法人 日本学生陸上競技連合 会報 第170号 (令和6年5月15日発行)

向上と進展

目 次

会長あいさつ 松本止之 ····································	1
【大会報告】	
第107日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走	3
第27回日本学生ハーフマラソン選手権大会	5
第18回日本学生20km競歩選手権大会····	6
第27回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会	7
FISU World University Championship Cross-Country	8
【会議報告】	
第63回理事会 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	10
第49回学生幹部役員研修会	23
令和5年度第69回指導者会議	24
【その他】	
普通会員数報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
替助会員募集/入会報告/編集後記	27

2 目 次

【大会報告】

第107回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走

九州学連幹事長 松永 昴大

1. 大会名: 第107回日本陸上競技選手権大会クロ

スカントリー競走

2. 大会期日: 2024年2月25日(日)

所:福岡県福岡市 海の中道海浜公園クロ 3. 場

スカントリーコース

4. 派遣役員: 計3名

片峯 隆、岩元 慎一、松永 昂大

5. 競技結果(学生抜粋/下表参照)

6. 大会総括

2月25日(日)、福岡県海の中道海浜公園クロスカ ントリーコースにて、第107回日本陸上競技選手権大 会クロスカントリー競走が開催された。前日までの悪 天候も落ち着きを見せ、午後からは気温も上がり、競 技に適した天候の下での競技会だった。本大会では 海の中道海浜公園の使用規則に則り、万全な感染対策 の下円滑な大会運営が行われていた。

13時50分にシニア女子8kmの部が一斉にスタート した。スタートからしばらくの間は大集団でのレース 展開が続いていたが、2周目からは隊列は大きく分か れ、先頭集団では酒井美玖選手(肥後銀行)、田浦英理 歌選手(積水化学)、三原梓選手(ルートインホテルズ) が先頭争いを繰り広げていた。3周目に入ると先頭争 いは酒井選手と田浦選手の一騎打ちとなり、両者は最 後までデッドヒートを演じた。最終的には26分11秒 という同タイムでのフィニッシュとなり、酒井選手が 優勝、田浦選手が2位という結果となった。

学生では、レース序盤から上位をキープし続けた太 田咲雪選手(立命館大)が全体5位でフィニッシュし、 学生トップの記録を残した。太田選手には日本学生陸 上競技連合杯が授与された。活躍を見せた学生競技 者は太田選手のみならず、小暮真緒選手(順天堂大) や浜野光選手(中央大)が27分台でフィニッシュし、



ンニア女子8kmは実業団勢が上位を占めるなか、太田咲雪(立命館大、右端)が27分21秒で5位と健闘した。左端は全体18位で学生4位だった谷本七星(名城大)

全体的に学生競技者のレベルの高さを感じることの できるレースでもあった。

続いて、14時25分からはシニア男子10kmの部がスタートした。レース序盤は上野裕一郎選手(ひらまつ病院)が飛び出して先頭集団を牽引するような展開だったが、1周目通過時点では大きく飛び出した選手はおらず、先頭は横に大きく広がった大集団となってレースが進んでいった。

2周目通過時には、先頭集団は長い縦列となっており、中村友哉選手(大阪ガス)らが先頭を走っていたが、やがて井川龍人選手(旭化成)、藤曲寛人選手(トヨタ自動車九州)、山口智規選手(早稲田大)の3名が集団から抜け出し、優勝争いを展開していった。そこに一時は坂東悠汰選手(富士通)が追いつき、残り2km地点ではそれと入れ替わるように荻久保寛也選手(ひらまつ病院)が先頭集団に加わっていき、以上5名の選手が熾烈な上位争いを繰り広げていた。

最終的な優勝争いは山口選手と井川選手の一騎打ちとなり、29分16秒という記録で山口選手が優勝、井川選手が2位という結果となった。こちらもシニア女子と同じくタイム差なしでの決着だった。また、3位にはラストに怒涛の追い上げを見せた坂東選手が食い込んだ。記録はトップと5秒差の29分21秒であった。

■シニア男子10km上位成績(学生上位8名)

順位	氏名		氏名 フリガナ		フリガナ	所属	記録
1	山口	智規	ヤマグチ トモノリ	早稲田大学	29分16秒		
8	分須	尊紀	ワケス タカノリ	日本体育大学	29分40秒		
12	斎藤	将也	サイトウ ショウヤ	城西大学	29分48秒		
14	柴戸	遼太	シバコ リョウタ	帝京大学	29分55秒		
17	緒方洋	零那斗	オガタ レナト	東洋大学	29分58秒		
24	高槻	芳照	タカツキ ヨシテル	東京農業大学	30分18秒		
31	小林	亮太	コバヤシ リョウタ	東洋大学	30分26秒		
39	富永	椋太	トミナガ リョウタ	日本体育大学	30分49秒		

■シニア女子8km上位成績 (学生上位8名)

順位	氏名		フリガナ	所属	記録
5	太田	咲雪	オオタ サユキ	立命館大学	27分21秒
11	小暮 真緒		コグレ マオ	順天堂大学	27分40秒
14	浜野 光		ハマノ ヒカル	中央大学	27分48秒
18	谷本	七星	タニモト ナナセ	名城大学	28分04秒
25	新井	沙希	アライ サキ	拓殖大学	28分36秒
26	田島	愛理	タジマ アイリ	順天堂大学	28分39秒
27	高橋 朱穂		タカハシ シュホ	亜細亜大学	28分39秒
28	市川	碧花	イチカワ アオカ	筑波大学	28分46秒

優勝者かつ学生トップでもある山口選手には、日本学生陸上競技連合杯が授与された。有力選手も数多く出場する今大会において学生競技者が優勝という結果を残すことができたことは非常に喜ばしいことである。また、山口選手の他にも29分台という好記録を残した選手が4名おり、総評してこれからの学生陸上競技界に大きな期待を抱かせる素晴らしいレースであった。



シニア男子10kmは山口智規(早大、左)と井川龍人(旭化成)の一騎打ちとなり、山口が29分16秒で初の栄冠に輝いた

【大会報告】 第27回日本学生ハーフマラソン選手権大会

副幹事長 横川 侑香

1. 大 会 名: 第27回日本学生ハーフマラソン選手

権大会

2. 大会期日: 2024年3月10日(日)

3. 場 所: 東京都·立川市

立川シティハーフマラソンコース

4. エントリー数: 1385名(完走者数847名)

5. 派遣役員(敬称略): 計26名

有吉 正博、関根 春幸、障子 恵、山下 誠、 伊東 輝雄、大後 栄治、羽田 雄一、赤峰 俊彦、 大朝 太、片岡 裕介、鎌倉 光男、関 隆史、

板東 孝訓、町田 紀子、宮田 英明、大西 清司、 﨑井 優希菜、三浦 拓也、横川 侑香、

桑原 悠真、村上 奈穂、松尾 航、目黒 亜実、 雨宮 倫可、長束 文、宮田 佳穂、清水 美空

6. 大会総括

3月10日、東京都立川市の立川シティハーフマラソンコースで、2023年度の男子のロードレースシーズンを締めくくる第27回日本学生ハーフマラソン選手権大会(併催:立川シティハーフマラソン)が開催されました。

当日はうららかな春の日差しのなか、847名の選手による熱いレースが展開されました。5km通過は14分49秒とやや落ち着いた入りとなり、10kmを29分

47秒で通過しました。

14km過ぎから青木瑠郁選手(國學院大)が抜け出し、後続を徐々に引き離して、1時間2分06秒で優勝しました。

後続では、17kmを過ぎたところで、近田陽路選手(中央学院大)、工藤慎作選手(早稲田大)、白川陽大選手(中央大)、辻原輝選手(國學院大)の4名が2位争いを繰り広げる展開となりました。そこから抜け出した近田選手が1時間2分19秒で2位。そして、熾烈な3位争いは、ラストスパートで制した工藤選手が1時間2分29秒でフィニッシュしました。

6位までの選手が2年生以下となったなか、入賞したすべての選手が1時間2分台の好タイムでフィニッシュし、立川シティハーフマラソンと併催で行う最後の大会としてふさわしいハイレベルな争いでした。今大会に出場した選手が、2024年度にどのように学生長距離界を盛り上げてくれるのかという期待が非常に高まるレースとなりました。

さて、次大会以降は、香川丸亀国際ハーフマラソンと併催で開催する運びです。開催場所が変わってもなお、選手たちへ大きな声援を送っていただきますようよろしくお願いいたします。



14km過ぎから独走し、自己ベストにあと4秒の1時間 2分06秒で優勝を飾った青木瑠郁(國學院大)

表彰台でメダルを授与された上位3選手。青木を挟んで 左が1時間2分19秒で2位を占めた近田陽路(中央学院 大)、右が1年生ながら1時間2分29秒で3位と健闘した工 藤幢作(早稲田大)

【大会報告】

第18回日本学生20km競歩選手権大会

副幹事長 横川 佑香

1. 大 会 名: 第18回日本学生20km競歩選手権大会

2. 大会期日: 2024年3月17日(日)3. 場 所: 石川県・能美市

能美市営20kmコース

4. エントリー数: 男子57名、女子29名

5. 派遣役員(敬称略): 計4名

福島 洋樹、石井 公一、横川 侑香、福島 響希

6. 大会総括

3月17日、石川県能美市にて、第18回日本学生 20km競歩選手権大会が、第48回全日本競歩能美大 会との併催で行われました。

雨の降りそうな雲行きのなか、午前8時50分、男子のレースがスタートしました。スタート後、吉川絢斗選手(東京学芸大)が社会人選手に食らいつき、学生1位で独歩しました。その後、10km付近で萬壽春輝選手(順天堂大)が吉川選手に追いついてレースを進めましたが、再度前に出た吉川選手が1時間19分12秒で学生1位、全体4位でフィニッシュしました。

学生2位には萬壽選手、そして学生3位には近藤岬選手(明治大)が続きました。吉川選手及び萬壽選手はパリ五輪派遣設定記録(1時間19分30秒)を切るなどのハイレベルな歩きを見せました。

午前10時35分にスタートした女子のレースは、雨風が強まった中でのレースとなりました。下岡仁美選手(同志社大)がスタート直後からレースを引っ張り、そのまま1時間33分53秒で学生、全体ともに優勝を飾りました。下岡選手は昨年の第92回日本インカレに続いての全国優勝となりました。学生2位は永井優会選手(金沢学院大)、学生3位に内藤未唯選手(神奈川大)と続きました。

男女ともに社会人選手に引けをとらない、レースが繰り広げられました。

20km競歩は、昨年のFISUワールドユニバーシティゲームズ (2021/成都) でも男女ともに良い結果を残しました。今後も世界トップレベルの競技会での活躍が期待されます。



男子の学生1位は吉川絢斗(東京学芸大)。1時間19分12秒の好タイムをマークした



女子は下岡仁美(同志社大)が序盤から先頭に立ち、そのまま1時間33分53 秒で全体でも優勝を飾った

【大会報告】 第27回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会

幹事長 三浦 拓也

1. 大 会 名: 第27回日本学生女子ハーフマラソン

選手権大会

2. 大会期日: 2024年3月17日(日)

3. 場 所:島根県・松江市

まつえレディースハーフマラソンコース

4. エントリー数:83名(完走者数58名)

5. 派遣役員(敬称略): 計12名

永井 純、関根 春幸、町田 紀子、山下 誠、 伊東 輝雄、和田 正信、鶴崎 健一、 大西 清司、三浦 拓也、村上 奈穂、 野坂 勇真、小村 文乃

6. 大会総括

島根県松江市まつえレディースハーフマラソンコースにて、岸清一賞国際文化観光都市第45回まつえレディースハーフマラソンと併催して、女子ロードシーズンを締めくくる第27回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会が開催されました。大会当日は強風が吹き荒れるタフなレース展開が予想されるなか、午前10時に国宝・松江城大手前を出発した62名の学生女子ランナーが、早春の城下町を颯爽と駆け抜けました。

スタート直後から谷本七星選手(名城大)が果敢に 先頭に立ち、集団を引っ張る展開となりました。5km は8人ほどの集団で通過し、15km通過地点で学生先 頭集団は谷本選手、野田真理那選手(大東文化大)、 小林舞妃留選手(大阪学院大)、原田紗希選手(名城 大)の4人の争いとなりました。20km地点では、谷本選手、野田選手、小林選手による三つ巴のスパート合戦となり、激しいデッドヒートの末、野田選手が先にスパートをかけていた谷本選手をかわし、初ハーフ初優勝を果たしました。2位には冷静なレース運びで粘り強く足を溜めていた小林選手、そして、終始積極的な走りを見せていた谷本選手は3位でフィニッシュしました。

今大会では実業団と学生が互いのプライドを懸けた争いが随所で見られ、学生にとって大変貴重な経験となったことと思います。また、全体結果でも上位8位までに7名の学生が入賞するなど、大いに学生の力を示しました。今大会に出場した多くの選手が、世界の舞台に向けて今後も活躍することを期待しております。また、2025年にはFISUワールドユニバーシティゲームズ(ドイツ/ライン・ルール)が開催されます。学生競技者の国際舞台での活躍にさらなる期待が高まります。

最後になりましたが、今大会が無事に開催できましたのは、国際文化観光都市まつえレディースハーフマラソン実行委員会の方々や、一般財団法人島根陸上競技協会、地域の方々など今大会に関わってくださったすべての方からのご支援・ご協力によるものです。この大会がさらに発展し、陸上界の盛り上がりにつながるよう、今後ともよろしくお願いいたします。

【海外派遣報告】 FISU World University Championship Cross-Country

強化委員 米田 勝朗(名城大監督)

1. 大会名: 第23回世界大学クロスカントリー選手権大会

2. 大会期日: 2024年2月17日(土)~18日(日) 3. 派遣期間: 2024年2月13日(火)~20日(火)

7泊8日(機中2泊)

4. 場 所: オマーン・マスカット 5. 派遣種目: 男子10km、女子10km 6. 派遣選手: 男子4名、女子4名

男子: 吉岡大翔(順天堂大学1年) 斎藤将也(城西大学2年) 佐藤榛紀(東京国際大学3年) 黒田朝日(青山学院大学2年)

女 子:宮原なな佳(福岡大学2年) 小川陽香(立教大学1年) 永長里緒(大阪学院大学3年) 村松 灯(立命館大学3年)

7. 派遣スタッフ

監 督:大後栄治(日本学連強化委員/神奈川大学) コーチ:米田勝朗(日本学連強化委員/名城大学)

コーチ: 齋藤真希(福岡大学)

トレーナー: 矢嶋友美 (T.S Serve Trainer Team)

8. 大会の概要

①参加国および競技方法

第23回目となる本大会は、オマーン・マスカットにて行われた。

日本チームは、新型コロナウイルス感染症の影響から前回大会(ポルトガル/アヴェイロ)の派遣を取り止めており、2大会ぶり6回目の出場となった。参加国は22ヵ国であった。今大会から競技プログラムが1日から2日に延長されるなど、多く改訂されていた。その結果、レギュレーションの認識に齟齬が生じ、混乱を招く結果となった。このことについては10において詳しく触れるが、日本チームは団体戦の対象外となり、男女とも10kmレースの個人結果のみが公式記録となった。

②ロケーション

マスカットは港湾都市として栄えるオマーンの首都である。オマーン湾に面し、山と砂漠に囲まれている。マスカット市の人口は少なく約2万人。砂漠気候に属し、長い酷暑に襲われる「夏」と温暖な「冬」の2つの季節がある。11月から3月にかけての平均気温は20度前後で過ごしやすいとの情報があったが、直射日光が強く、連日30度を超える暑さであった。そんな状況の中でも、現地の人は「今は冬だ」と言っていたのが印象的だった。

③スケジュールおよび滞在先と食事

選手団は2月13日20時00分に成田空港に集合し、22時30分発のエミレーツ航空にて、経由先のドバイに向かった。

夜のフライトということもあり、機内ではしっかり睡眠をとることができた。ドバイ空港には早朝5時30分に到着し、約3時間の乗継時間の後、マスカット空港へと向かった。マスカット空港には10時前に到着した。到着後は迎えのバスにて選手村に指定されたホテルに移動した。

ホテル到着後は昼食を摂り、すぐにチェックインを行うことができた。ホテル周辺には各国の大使館が点在しており、周辺の環境は良く(ホテル内にコンビニもあり)、特に不自由を感じることはなかった。近くには交通量が少ないロードや直線で10km以上の砂浜もあり、練習環境としても特に問題はなかった。大会会場や開閉会式会場までは距離があり、その都度シャトルバスが運行された。

食事に関しては、すべてビュッフェ形式であった。メニューも豊富で野菜類も多く、バランスのとれた内容であった。どれも美味しくいただくことができた。

④到着から試合までの調整について

現地到着後から大会までの練習計画は、ある程度所属の 指導者と打合せをしてくるように指示してあった。到着した 日の夕方は、ホテル周辺で軽く身体を動かす程度の練習を 行った。2日目以降は朝練習の後、午前に練習をする者、午 後に練習をする者に分かれ調整練習を行った。トラックで 刺激を行いたい者もいたが、トラックを使用することができ ず、ロードで距離を測って刺激を行った者もいた。そのよう な状況でも動揺することなく、臨機応変に対応できていた。

⑤選手のコンディショニング

日本を出発する前に、矢嶋トレーナーにコンディションチェックを行っていただき、選手たちの体調を把握した。若 干故障気味の選手と出発直前に熱を出した選手がいた。特 に熱を出した選手については、遠征に同行させるか非常に 難しい判断が迫られた。蒲原医事委員長に電話で問診して いただき、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症では ないということと、現地で悪化することはないだろうという 診断結果から同行させることになった。

現地ではトレーナールームを設置し、矢嶋トレーナーがケアを行った。ホテルの食事を含めて衛生的な環境であったことから、大会当日まで大きく体調を崩す選手はおらず、皆良い状態でスタートを迎えることができた。

⑥大会のコース

コースはMilitary Technological Collegeの敷地内を利用し、1周約1.5kmの周回コースで設定されていた。路面は硬い粘土質で、選手がスパイクを履くべきか悩むほどであった。コース内には軽いアップダウンと泥沼(膝下が水に浸かる深さ)、ヤシの幹の障害、干し草キューブなどが設置されていた。何よりも日陰がまったくなく、どこを走っていても強い日差しを受けるため、コースの攻略よりも暑さとの戦い

となることが予想された。普段から長い距離を走っている男子選手にとっては距離に対しての不安はなかったと思うが、女子選手にとってはかなり不安を抱えながら臨むレースとなった。

9. 大会結果 (別表参照)

大会当日は快晴で、スタート時の気温は30度を超えていた。風も弱く、かなり暑さを感じる厳しいコンディションであった。

レース前にアドバイスした内容は、脱水症になって途中 棄権することにならないように、ウォーミングアップの時から細目に水分補給を行い、レース中も給水をしっかりとることであった。個人の成績も大事であるが、男女団体の金メダル獲得を目標(この時点では)としていたので、絶対に最後まであきらめめないこと。フィニッシュ直前では1つでも順位を上げるように指示を出した。

最初に行われた女子のレースでは、暑さの影響かスタート直後からスローペースでレースが展開された。日本勢も全員先頭集団で様子をうかがっていた。レース中盤から少しずつ集団が崩れていき、日本勢では小川がただ1人先頭集団(5名)でレースを進めていった。そして、終盤においても小川は強気の走りで先頭争いを展開した。残念ながらラスト勝負で南アフリカと英国の選手に離されてしまったが、見事3位で銅メダルを獲得することができた。他の日本勢も最後まで粘り強く走り切り、永長が11位、村松が16位、宮原が19位でフィニッシュした。

続く男子のレースでは、前半から日本の4選手が積極的なレースを展開した。途中、黒田、吉岡、斎藤が先頭でレースを引っ張る場面もあり、見ている我々にとってもワクワクするレース展開であった。レース後半において黒田と佐藤は先頭から離されたものの、吉岡と斎藤は最後までメダル争いを展開した。残念ながらラストスパート合戦で、ウガンダ、スペイン、フランスの選手に敗れたものの、吉岡が4位、斎藤が5位でフィニッシュした。黒田と佐藤も最後まで粘りの走りを見せ、黒田が11位、佐藤は24位だった。

10. レギュレーションに対する認識の齟齬について

我々は手元の集計で男子団体は金メダル、女子団体は銅メダルであることを確信し、閉会式に参加した。しかし、日本は団体表彰の対象国ではく、メダルを授与されることはなかった。事前に各国に送られていたレギュレーションの認識に齟齬が生じていたからである。

主催者が決めていた団体戦のルールは、ショートレース (3km) とロングレース (10km) の合計ポイントで団体戦の順位を決定するというものであった。しかし、我々はショートとロングの団体は別々に表彰されるものだと認識していた。レギュレーションを読む限り、そのような細かい説明はされていないので、日本と同じような認識をしていた国は他にもあったようである。大会終了後にいくつかの国からFISUに問い合わせがあり、レギュレーションの表記が誤解を招くものであったことを認めている(しかし、団体戦の順位は変更なし)。また、次回大会に向け、レギュレーションの改訂および修正に努めることをメールで各国に伝えている。

団体表彰はされなかったものの、後日主催者が公表した

ロングレースの団体ポイントは以下のとおりである。メダル はないが日本選手団の活躍は大いに評価されるものである。

■ロングレース (10 km) におけるポイント合計

	男	子	女	子
順位	国名	国名 ポイント		ポイント
1位	JPN	20	GBR	17
2位	FRA	22	ITA	26
3位	ITA	40	JPN	30
4位	AUS	40	GER	38
5位	ESP	41	RSA	46

11. まとめ

FISUはこの大会の価値を高めるために、今大会から新しいレースを追加している。それは中距離ランナーも出場できる、Short Mixed Relay (1.5 - 2 km) と Long Mixed Relay (4.5 - 6 km) である。これらは1日目に行われており、刺激の意味合いでリレーに出場し、2日目に行われた個人のレース (3 km or 10 km) に出場する選手も見られた。

齟齬が生じた団体戦は、次回以降もショートレースとロングレースの合計ポイントで実施されるものと思われる。今回出場した選手たちは、団体戦の順位を意識して最後まで粘り強く走ってくれた。団体戦の順位にこだわることで引き出された力があることは間違いない。

大学在籍時に海外遠征等を目指す、または経験することは、競技生活においても高いモチベーションや広い視点をもたらし、人としても大きく成長できる重要な機会である。強化の観点から、今後も一人でも多く国際大会に派遣していただくことが、日本学生陸上競技全体の競技力向上につながっていくものと確信する。

■大会結果

【男子1	【男子10 km】優勝者 Seth Akampa (Uganda) 29分12秒											
氏	名	所	所 属		位	記	録					
吉岡	大翔	順天堂	之大学	4	位	29分	29秒					
齋藤	将也	城西	大学	5	位	29分	34秒					
黒田	朝日	青山学	院大学	11	位	30分	10秒					
佐藤	榛紀	東京国際大学		13	位	31分	27秒					
			完走者6	3名								

【女子1	【女子 10 km】優勝者 Maria Karabo Mailuta (South Africa) 34分 03 秒										
氏	名	所 属		順 位		記	録				
小川	陽香	立教	立教大学		立教大学		位	34分	22秒		
永長	里桜	大阪学院大学		11	位	35分	23秒				
村松	灯	立命食	官大学	16	位	35分	49秒				
宮原な	な佳	福岡大学 19位			位	36分	·11秒				
			完走者3	0名							

^(会議報告) 第63回理事会

1. 開催された日時

令和6年3月2日(土)12時26分から15時27分まで

2. 開催された方法

TKP新宿カンファレンスセンター4D

3. 理事総数及び定足数

現在数22名、定足数12名

4. 出席理事数 20名

(出 席)有吉 正博、植田 恭史、岡崎 朋美、 小倉 幸雄、片平 誠人、北井 敏雄、 木下 澄雄、工藤 洋治、黒須 雅弘、 障子 恵、杉山 喜一、関根 春幸、 鶴崎 健一、永井 純、長澤 光雄、 日隈 広至、福島 洋樹、松本 正之、

安井 年文、山下 誠 (出席監事) 細萓 智大、山本 俊樹

(欠 席)蒲原 一之、小林 聖子

(オブザーバー) 岡田 晃、河野 匠、田宮 一郎、 船原 勝英

5. 議 題 【協議事項】

第1号議案 令和6年度事業計画(案)承認の件 第2号議案 令和6年度事業予算(案)承認の件

第3号議案 特定費用準備資金計画・特定資産につ

いて

第4号議案 令和6年度主催競技会要項(案)承認の

1+

第5号議案 令和5年度栄章受章候補者の承認の件

第6号議案 令和6年度正会員入会承認の件

第7号議案 令和6年度/7年度専門委員会につい

7

第8号議案 令和6年度/7年度次期理事、監事候

補者について

第9号議案 第16回定時社員総会開催承認の件

第10号議案 2023年度開催日本 I C 及び出雲駅伝の

成績変更について

第11号議案 令和4年度事業を対象としたスポーツ

振興助成金実態調査について

第12号議案 その他

【報告事項】

10 会議報告

- ①前回理事会以降の会務の報告
- ②2024世界大学クロスカントリー (マスカット) について
- ③2023年日本学生記録
- 4)その他

6. 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認

会に先立ち、大西清司事務局長が定足数の充足を 確認した。

(2)議長及び議事録署名人の選出

松本正之会長が議長となり、本会議の開会を宣した。議事録署名人は定款33条に基づき、松本正之会長、有吉正博副会長、細萱智大監事、山本俊樹監事となった。

(3) 議案の審議状況及び議決結果

【協議事項】

第1号議案【令和6年度事業計画(案)承認の件】

永井純専務理事より資料に基づき提案があった。

公1、競技会に関して、93回日本ICは前回の理事会で熱中症の問題を考慮し、長距離競技の分離開催を検討することが決定したが、日程や場所、経費の問題があり、10000mや10000m競歩は木曜日から夕刻の時間帯に実施、4日間で開催することとなった。木曜日に神奈川陸協の審判や学生補助員が集まれるかが心配だったが、神奈川陸協は要求があればその人数を出すとのこと、学生補助員に関しては川崎という地の利便性から問題ないと判断。

日本学生ハーフマラソンは、次回は香川丸亀国際ハーフマラソンとの併催で実施したい。ここでWUGの代表選考も予定している。能見市で開催の学生競歩選手権では男子3名をWUGの代表として内定する予定である。松江で予定している日本学生女子ハーフマラソンでも3人の内定を出す予定である。

公2、育成、①競技者育成(競技会派遣等)に関して、2024チャイニーズ台北国際陸上競技大会と香港インターシティー 2024は陸連を通して招待状が届いた場合に派遣する。新型コロナウイルス感染症の影響で中止していたオランダのZevenheuenelenloop15kmロードレース派遣を復活させたいと考えている。

公2、育成、②競技者・指導者・審判員育成事業 に関して、巡回指導地区学連の要請により実施して いるので活用していただければと思う。

公3、調査研究では、年3回発行の陸上競技研究 (135~137号)の発行、日本陸上競技学会の共催を計 画している。

向上と進展会報170.indd 10 2024/05/07 14:48

法人管理部門に関しては、年5回の理事会と定時 社員総会、学生役員の幹部役員研修会及び会報の発 行を計画している。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理 事全員一致で可決した。

第2号議案【令和6年度事業予算(案)承認の件】

大西清司事務局長より資料に基づき令和6年度収支予算(資金収支ベース)及び正味財産増減予算(案)について提案があった。

資金収支ベースの資料により、全体像として、令和5年度の事業活動収支差額は3,000,000円の赤字としたが、令和6年度の収支予算書では事業活動収支差額は0円の均衡予算としたい。

続いて正味財産増減予算書について以下の説明が あった。

- •経常収益は、公益目的事業会計・法人会計それぞれに定められた配賦率に基づき計上。
- 受取会費:正会員受取会費は定款で135名と定められているため、135×5,000円の675,000円を計上している。普通会員受取会費については令和6年度に関しては20,000名を想定して予算化しており、36,000,000円を計上。
- 受取協賛金、受取放映権料、受取参加料、受取広告 料、入場料収入等、受取負担金、受取補助金など各 勘定科目について対前年比で説明。
- ・経常費用について、事業費・管理費(法人会計)も それぞれに配賦率に基づき計上、給与手当、会議 費、旅費交通費、通信・運搬、印刷製本費、賃貸料、 諸謝金などの勘定科目について、対前年比で説明。
- ・公益法人の会計においては管理費を事業費へ相応 に配賦することが可能なため、管理費を一定の割 合で事業費に振り分けている。公益目的事業比率 は90%以上になっている。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理 事全員一致で可決した。

第3号議案【特定費用準備資金計画・特定資産について】

大西事務局長より資料に基づき特定費用準備資金 計画・特定費用について提案があった。

WUGに関しては、令和4年において、1000万円の 積み立てを行っており、そのうちの300万円を令和5年度決算で取り崩す。世界大学クロスカントリーは 400万円積立てており、そのうちの200万円を取り崩す。創立100周年事業は50万円積立てる。以上、令和5年度決算に向けた対応、6年度予算に向けた対応 について提案。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理 事全員一致で可決した。

第4号議案【令和6年度主催競技会要項(案)承認の件】 山下誠常務理事及び安井年文理事より資料に基づき令和6年度主催競技会要項(案)について提案があった。全10競技会の現時点での要項について、特に変更がある点を説明する。

- 学生個人選手権: 投てきの標準記録を下げた。
- 実学対抗:参加基準に関して、個人選手権との日程が近いため、今年は記録の上位者から選ぶことを考えている。
- •日本インカレ:3.5日開催とする。木曜日には短 距離種目及び暑さ対策のため10000mを夕刻に開 催するよう調整している。標準記録の考え方とし て、過去の強化委員会では上げたものは下げない として標準記録を設定していた。A標準は前年度 の30位程度、B標準は前年度の50位程度である。 しかし、今回は投てき種目の男子砲丸投、男子円盤 投、男子やり投は前回よりも下げることを提案す る。女子も同様に円盤投とやり投を下げる。理由と しては、参加人数が対校戦にもかかわらず減って しまうと委員からの指摘があったためである。男 子の三段跳ではB標準を15m45に上げた。理由 は競技レベルが上がってきているからである。ま た、参加人数に関して、標準記録のみならずター ゲットナンバー(以下TN)を導入したいと考えて いる。具体的には参加人数を超えた場合、標準記 録を切っていても出場できないということである。 昨年まで長距離種目では導入されていたが、短距 離中距離でも導入してはどうかということである。 前年度のランキングで標準記録を設定するため流 動的になってしまい、予想以上のエントリーがあ ると、番組編成上1着取りなどの事態となり、競技 者の大きな負担となってしまう。出場することで 満足することでなく、さらにその上を狙うといっ た強化の考え方もある。今まで長距離でしか導入 してこなかったTNを短距離、中距離でも導入し たいということが強化委員会からのお願いである。 TNを導入することでC標準資格を残すこととす る。日本 I Cは8つの地区からの代表者という観点 も尊重する。標準記録は下げないといった慣例も あったが、競技力はその年代によって上下すると いうことと、それによる不具合を解消することが 目的である。TNを入れることで選手はある程度

読みが可能になる。選手はSNSや陸上競技ランキングで何番に入っているか確認していることから、TNを入れることに大きな問題はないのではと考える。日本ICから関東の大会などに広がってほしい。選手にとっては予選、準決勝、決勝と組数がその都度変わるよりも決まっていることでラウンドの進み方が読みやすくなる。標準記録があることで標準記録をクリアし、TN内に入れば出場できるという分かりやすい状況になるため設定した。世界の大会もワールドランキングポイントで半分以上が決まっていくため、選手の強化を考えると日本学連も同じように進めていくことが選手強化につながると考える。

- <u>駅伝</u>: いずれの駅伝も留学生に関する要項を追記した。
- •日本IC大会要項の参加資格については、強化委員会提案に対して、各理事から多くの意見が出され、長時間にわたる意見交換から、修正案が出され替否が問われた。
- ①地区インカレ優勝者は日本インカレに出場できる ということでよいか:全員賛成で可決
- ②TNを導入することでよいか: 賛成多数で可決 なお、具体的なTN数については、競技運営の効 率性をふまえ関係理事で具体案を検討することと した。提案内容を承認することを、出席理事賛成多 数で可決した。

第5号議案【令和5年度栄章受章候補者の承認の件】 永井純専務理事より資料に基づき令和5年度栄章 受章候補者について提案があった。

北海道学連、関東学連、東海学連、北信越学連、関西学連、中国四国学連、九州学連、日本学連より合計12名を功労章に推薦したい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理 事全員一致で可決した。

第6号議案【令和6年度正会員入会承認の件】

障子恵理事より資料に基づき令和6年度正会員入 会承認の件について提案があった。

学生役員の入れ替わりによる正会員の変更が主と なっている。関東学連は、関東学連内承認手続きを 経て、今後の理事会に名簿提出の予定である。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理 事全員一致で可決した。

第7号議案【令和6年度・7年度専門委員会について】

障子恵理事より資料に基づき令和6年度・7年度 専門委員会について提案があった。

12 会議報告

企画委員会が調整中となっているが、執行役員で 構成する委員会となっているため定時社員総会後に 確定する。各委員会の新規入会者、委員について確 認されたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理 事全員一致で可決した。

第8号議案【令和6年度/7年度次期理事、監事候補 者について】

永井純専務理事より資料に基づき令和6年度/7年度次期理事、監事候補者ついて提案があった。コロナ禍においては、いろいろと困難な状況が起こり、さまざまな工夫をし、乗り切ることができた。来年は東京で世界陸上があり、日本ICをどこで開催するのかなど、いろいろな事象の対応を考えなければならないなど、現役員を微調整で構成したい。次期役員候補は、理事会を経て最終的に定時社員総会に提案される。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理 事全員一致で可決した。

第9号議案【第16回定時社員総会開催承認の件】

永井純専務理事より資料に基づき定時社員総会開催承認の件について提案があった。年に1度、公益社団法人日本学生陸上競技連合の組織の最上位に位置するものである。令和6年6月8日(土)14時からTKP新宿カンファレンスセンターの5階で行う。出席しない場合は委任状提出が可能。議題は5月に行う理事会を経て、事業報告・収支決算、及び理事・監事の任期満了に伴う改選、名誉会員の推薦及びその他である。報告事項は日本学連の運営状況について報告させていただくこととなる

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理 事全員一致で可決した。

第10号議案【2023年度開催日本 I C及び出雲駅伝の 成績変更について】

永井純専務理事より資料に基づき2023年度開催日本IC及び出雲駅伝の成績変更について提案があった。創価大学の選手のアンチドーピング規程違反が確認されたことにより、日本IC及び出雲駅伝の成績に変更があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理 事全員一致で可決した。

第11号議案【令和4年度事業を対象にしたスポーツ 振興助成金実態調査について】

大西清司事務局長より資料に基づき令和4年度事業を対象にしたスポーツ振興助成金実態調査につい

て説明、提案があった。納品書の管理に関すること、 契約手続きに関することについて、改善案が示され た。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理 事全員一致で可決した。

第12号議案その他

特になし

【報告事項】

- ①前回理事会以降の会務の報告
 - 永井純専務理事より資料に基づき前回理事会以降 の職務執行について報告があった。
- 12月26日に立川市体育協会会長、立川市、立川市 陸協同席の下、打ち合わせを行い、今年限りで学 生選手権の冠を外してほしいことを伝え了承を得 た。この決定により、来年度の大会からは丸亀国 際ハーフと併催という形で行う方向で準備を進め ていくことが決まった。
- 1月17日にはEXPO駅伝のミーティングを関西学連の北井理事等を交えて行った。この駅伝は来年の3月19日に開催される駅伝である。
- 1月27日には公認コーチ制度に関するミーティングを日本陸連の方々を交えて行った。また同日には第1回日本学連役員候補選出会議があった。
- 1月29日には松本会長、学生幹事2名と全日本大学駅伝の特別協賛である長谷エグループを表敬訪問した。
- 2月1日は富士山女子駅伝の実行委員会、2月8日 はJADA、日本陸連、3者でアンチドーピング対応 のミーティング、予算を作るための財務委員会も 実施。
- 2月10日には日本学連内でアンチドーピング違反 の対応に関してミーティングを行った。
- 2月13日には世界大学クロスカントリー(マスカット)の派遣事業が行われた。
- 2月16日には実学対抗に関するミーティング実施。
- 2月19日には日本 I Cの運営に関する会議、3.5日 開催の方針を確認。
- 2月22日に倫理委員会、2月27日に第2回日本学 連役員候補選出会議を実施。
- ②2024世界大学クロスカントリー(マスカット)について

山下誠常務理事より資料に基づき2024世界大学クロスカントリー(マスカット)の報告があった。2月18日にオマーンのマスカットで行われた。チー

ムスタッフは神奈川大学の大後先生、名城大学の米田先生、トレーナーの矢嶋氏、同行する形で福岡大学の齋藤先生が帯同した。男子は最上位が順天堂大学の吉岡選手の4位、女子の最上位は立教大学の小川選手の3位であった。チームの成績に関して、以前までは10kmのレースの上位者を合計してチーム戦になっていたが、3kmの上位3名と10kmの上位3名の2種目の合計に成績ルールの変更があったようでレギュレーションにおいて曖昧なところがあった。エントリーの時点ではHPに掲載されていなかった。10kmの記録集計では男子は1位、女子は3位であった。

③2023年日本学生記録について

山下誠常務理事より資料に基づき2023年に日本学生記録について報告があった。特筆事項としては、男子フルマラソンで國學院大學の平林選手が良い結果を残した。前回の理事会でロードレースの5kmと10kmを日本学生記録にするか検討することとなったが、競技委員会で検討の結果、日本学生記録にしないこととした。理由としては短距離種目も含めてワールドランキングポイントの関係で昨今さまざまな記録が公認になっているが、全部認めることは作業への影響を懸念、一つの基準としてWUGでの新種目として認められる場合には学生記録として検討するなど、競技委員会で確認した。

4)その他

永井純専務理事及び工藤洋治理事より倫理委員会の規程について報告があった。コロナ禍で動くことができなかったが、今年に入り会長から中身を詰めた方がよいと指摘を受けたため工藤洋治常務理事と話し合った。処分するための委員会はあっても処分するための規程が出来ていなかったため、それを改善すべく検討している。

また、永井専務理事及び大西清司事務局長より総務委員会副委員長の河野匠氏を職員として採用する旨報告があった。5月下旬頃から徐々にお手伝いいただき、8月1日付けの採用とする。事務局体制は朝比奈を含め3人で運営していきたいと考えている。

以上をもって議案の審議等を終了した(15時28分)

資料 令和6年度 事業計画

公益社団法人日本学生陸上競技連合 2024年度(令和6年度)事業計画(案)

(事業目的)

公益社団法人日本学生陸上競技連合(以下、「この法人」という。)は、日本の学生陸上競技界を統括し、かつ代表する学生の競技団体として、学生陸上競技の普及・振興を図り、学生の心身の健全な発達と明るく豊かな学生生活の形成に寄与することを目的とする法人である。

(基本方針)

- 以上を目的とし、次の3点を軸に事業計画を策定した。
- (1)学生陸上競技に関する競技会を円滑に開催する。
- (2)学生陸上競技界の競技力向上を図るため、競技者の国際競技会への派遣及び外国の学生競技者の国内競技会への招致を積極的に推進する。
- (3) 陸上競技の普及・振興を図るため、関係団体と協力し競技者が快適に競技に取り組むことが出来る環境の整備を推進する。

■公益目的事業

公1一競技会

No.	競技会	期日	場所	種目数	参加校·参加数	備考
	2024 日本学生陸上競技個人選手権大会	2024年 6月14日(金) ~16日(日)	レモンガス スタジアム平 塚	男子18 女子18	100校…600名 100校…600名	※スポーツ振興基金助成金を申請 ※台湾チーム受け入れ
	秩父宮賜杯第64回 実業団·学生対抗陸上競技大会	2024年 7月20日(土)	レモンガス スタジアム平 塚	男子10 女子10 (予定)		【後援】 スポーツ庁(予定) 秩父宮賜杯 <総合優勝> 内閣総理大臣杯(予定)<総合優勝> 文部科学大臣杯(予定)<男子団体優勝> 東等労働大臣賞(予定)<女子団体優勝> →申請予定 ※グランプリシリーズに参入
	天皇賜盃第93回 日本学生陸上競技対校選手権大会	2024年 9月19日(木) ~22日(日)	川崎市- 等々力陸 上競技場	男子22 女子22	135校/1100名 120校/900名	【表彰】 天皇賜盃 〈男子総合優勝〉 秩父宮妃杯〈女子総合優勝〉
	第36回 出雲全日本大学選抜駅伝競走	2024年 10月14日 (月/祝)	出雲市 45.1km 全6区間		国内…23チーム 海外…1チーム	【後援】スポーツ庁(予定) 【表彰】内閣総理大臣杯(予定)<優勝校> 文部科学大臣賞(予定)<優勝校> →申請予定
	第42回 全日本大学女子駅伝対校選手権大会	2024年 10月27日(日)	仙台市 38.0km 全6区間		25校+1チーム (東北学連選抜)	【後援】スポーツ庁(予定) 【表彰】文部科学大臣杯(予定)<優勝チーム> →申請予定
	秩父宮賜杯 第56回全日本大学駅伝対校選手権大会	2024年 11月3日 (日/祝)	名古屋市 ~伊勢市 106.8km 全8区間		25校+2チーム(全 日本学連選抜 チーム/東海学連 選抜チーム)	【後援】スポーツ庁(予定) 【表彰】文部科学大臣杯(予定)<優勝チーム> →申請予定
	2024 全日本大学女子選抜駅伝競走	2024年 12月30日(月)	富士宮市 ~富士市 43.8km 全7区間		22校+2チーム(全 日本大学選抜 チーム/静岡県学 生選抜チーム)	【後援】スポーツ庁(予定) 【表彰】文部科学大臣杯(予定)<優勝チーム> →申請予定
8	第28回日本学生ハーフマラソン選手権大会 兼ワールドュニバーシティゲームズ(2025/Rhine-Ruhr)日 本代表選考競技会	2025年 2月2日(日) ※調整中	丸亀市		男子 名	丸亀シティーハーフマラソンと併催
9	第19回日本学生20km競歩選手権大会 兼 ワールドュニバーシティゲームズ(2025/Rhine-Ruhr)日本 代表選考競技会	2025年 3月16日(日) ※調整中	能美市		男子100名 女子 30名	全日本競歩能美と併催
10	第28回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会 兼ワールドュニバーシティゲームズ(2025/Rhine-Ruhr)日 本代表選考競技会	2025年 3月16日(日) ※調整中	松江市		女子100名	
*	2024年日本学生記録集の発行(記録年鑑)	2024年3月		1000部 学生50億		関連競技会結果を掲載した記録集

公2一育成 ①競技者育成(競技会派遣等)事業

No.	事業	期日	場所	備考
1	2024チャイニーズ台北国際陸上競技大会	未定	台北	男女各3~4名 役員…1~2名 ※日本陸連宛 主催者による招聘があった場合に実施
2	香港インターシティー2024	未定	香港	男女各3~4名 役員…1~2名 ※日本陸連宛 主催者による招聘があった場合に実施
3	Zevenheuvelenloop 15kmロードレース	2024年 11月17日(日)予 定	オランダ/ ナイメー ヘン	男女各4名 計8名 役員…学生幹事含め3名程度 ※地区学連推薦選手も同行可とする
4	第107回日本陸上競技選手権大会 クロスカントリー競走	2025年2月 調整中	福岡	主催:公益財団法人日本陸上競技連盟 →共催として参画
5	2025東京マラソン 準エリートの部への選手推薦	2025年3月 調整中	東京	特に優秀な競技者はエリートへ推薦

公2 - 育成 ②競技者·指導者·審判員育成事業

No.	0. 事業		期日·回数	場所	備考		
1	競技力向上	のための巡回指導	未定	各地	地区学生陸上競技連盟の要請により講師派遣		
2	競技者育成	費用負担事業	2大会		北日本インカレ、西日本インカレの共催		
3	} ドーピングコントロールテスト		3 ドーピングコントロールテスト 4回 (予定)		4回(予定)	各地	日本アンチ・ドーピング機構及び日本陸上競技連盟との連携により 競技会検査を実施
4	アンチドーピングアウトリーチプログラム		2回(予定)	各地	日本アンチ・ドーピング機構及び日本陸上競技連盟との連携により 実施(個人選手権、日本インカレ等)		
5	新規B級審	判員資格認定	各地区講習会を 実施 各地 約1400名 (男子1000名、女子400名)		約1400名 (男子1000名、女子400名)		
6	学生審判員	研修会	20~30	各地	地区学生陸上競技連盟の要請により講師派遣		
7	栄章贈与	功労章・勲功章の表彰	9月17日(日)	熊谷	日本インカレ時に実施、		
Ľ		日本新記録・日本学生新記録表彰	3月8日(土)	東京	12月31日時点の記録にて決定。栄章贈与式として実施		
8	第108回クロカン日本選手権の共催		調整中	福岡	共催事業として認定し、学生クロスカントリーの普及強化を推進		
9	第70回指導者会議		2025年3月8日	東京	テーマについては後日決定/オンライン併催予定		

公3 -調査・研究

No.	事業		場所	備考
1	陸上競技の研究調査	年3回		「陸上競技研究」誌の発行、toto助成申請予定 6月,10月,2月
2	陸上競技学会22回大会	年1回		主催:日本陸上競技学会 →共催として参画

■法人管理部門

組織力管理

No.	事業等	期日·回数	場所	備考
1	第65回理事会 第66回理事会 第67回理事会	9月19日(木) 12月14日(土)	東京原東京	※理事会の回数は暫定 ※臨時理事会・web会議システムによる開催の場合もある
2	第16回定時社員総会	6月8日(土)	東京	臨時社員総会・web会議システムによる開催の場合もある
3	2024年度学生役員会議 第50回学生幹部役員研修会	12月16日(土) 3月(未定)	東京	参加対象:地区学連幹部学生役員
4	会報の刊行(広報誌)	年3回		各回1000部発行(正会員、名誉会員、役員(地区学連加盟校に配 布) 内容:事業の報告、会議議事録等
5	ホームページの運営	随時		日本学連公式ホームページ・携帯サイトの運営
6	学連情報の編集・掲載	毎月		機関誌「月刊陸上競技」に掲載
7	公認競技会開催申請及び記録公認申請	2024年度		日本学連傘下の団体の公認競技会開催受付/日本陸連申請 日本学連傘下の団体の記録公認受付/日本陸連申請
8	会員の入会受付	2024年度		正 会 員…135名 普通会員(学生)/20,000名を想定 (男子15,000名,女子5,000名) 名誉会員…40名 賛助会員…20名

会議報告 15

向上と進展会報170.indd 15 2024/05/07 14:48

資料 令和6年度 予算書—正味財産

令和6年度正味財産増減予算書 令和6年4月1日~令和7年3月31日まで

(単位円)

								(早	位円)
		公益目的事業会計	計(内訳表)		公益目的事業 会計合計	法人会計	令和6年度 予算合計(A)	令和5年度 予算 (C)	增減 (A-C)
	公 1	公2	公3	共通	프레디테	ᄍᆒ	ア界ロ前 (A)	7异(0)	(A-C)
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1)経常収益									
基本財産運用益	0	0	0	2,000	2,000	2,000	4,000	4,000	С
基本財産利息	0	0	0	2,000	2,000	2,000	4,000	4,000	C
特定資産運用益	0	0	0	3,000	3,000	3,000	6,000	6,000	C
特定資産利息	0	0	0	3,000	3,000	3,000	6,000	6,000	С
受取会費	0	0	700,000	18,437,500	19,137,500	18,437,500	37,575,000	35,775,000	1,800,000
正会員受取会費	0	0	0	337,500	337,500	337,500	675,000	675,000	0
普通会員受取会費	0	0	0	18,000,000	18,000,000	18,000,000	36,000,000	34,200,000	1,800,000
賛助会員受取会費	0	0	0	100,000	100,000	100,000	200,000	200,000	0
陸上競技研究受取会費	0	0	700,000	0	700,000	0	700,000	700,000	0
事業収益	67,820,000	4,628,000	0	0	72,448,000	0	72,448,000	67,870,000	4,578,000
受取協賛金	20,150,000	4,628,000	0	0	24,778,000	0	24,778,000	24,250,000	528,000
受取放映料	17,600,000	0	0	0	17,600,000	0	17,600,000	17,600,000	С
受取参加料	9,200,000	0	0	0	9,200,000	0	9,200,000	8,700,000	500,000
受取広告料	6,700,000	0	0	0	6,700,000	0	6,700,000	2,300,000	4,400,000
入場料等売上	14,170,000	0	0	0	14,170,000	0	14,170,000	15,020,000	△ 850,000
受取負担金	10,356,000	100,000	0	0	10,456,000	0	10,456,000	9,950,000	506,000
受取負担金	10,356,000	100,000	0	0	10,456,000	0	10,456,000	9,950,000	506,000
受取補助金	3,000,000	0	2,300,000	100,000	5,400,000	0	5,400,000	5,000,000	400,000
受取補助金	0	0	0	100,000	100,000	0	100,000	100,000	
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	C
受取助成金	3,000,000		2,300,000	0	5,300,000	0	5,300,000	4,900,000	400,000
雑収益	110,000	0	0	0	110,000	1,000	111,000	161,000	△ 50,000
受取利息	0	0	0	0	0	1,000	1,000	1,000	
雑収益	110,000				110,000	0	110,000	160,000	△ 50,000
経常収益計	81,286,000	4,728,000	3,000,000	18,542,500	107,556,500	18,443,500	126,000,000	118,766,000	7,234,000

令和6年度正味財産増減予算書

令和6年4月1日~令和7年3月31日まで

(単位円)

					(単位円)				
		公益目的事業会計	十 (内訳表)		公益目的事業	法人	令和6年度	令和5年度	増減
	公1	公2	公3	共通	会計合計	会計	予算合計 (A)	予算 (C)	(A-C)
(2)経常費用									
事業費	90,791,500	17,162,800	5,170,500	0	113,124,800	0	113,124,800	109,515,650	3,609,150
給料手当	9,750,000	1,500,000	750,000	0	12,000,000	0	12,000,000	8,574,400	3,425,600
賞与引当金繰入額	942,500	145,000	72,500	0	1,160,000	0	1,160,000	778,400	381,600
退職給付費用	520,000	80,000	40,000	0	640,000	0	640,000	480,000	160,000
法定福利費	1,950,000	300,000	150,000	0	2,400,000	0	2,400,000	1,760,000	640,000
臨時雇用賃金	325,000	50,000	25,000	0	400,000	0	400,000	400,000	(
会議費	1,473,600	1,166,600	122,800	0	2,763,000	0	2,763,000	2,502,000	261,000
旅費交通費	29,178,100	7,994,000	399,700	0	37,571,800	0	37,571,800	36,678,800	893,000
通信運搬費	1,162,800	795,600	61,200	0	2,019,600 8,188,000	0	2,019,600	2,910,600	△ 891,000
印刷製本費 水道光熱費	7,820,000 70,000	276,000 30,000	92,000	0	100,000	0	8,188,000 100,000	7,671,800 100,000	516,20
食糧費	3,650,000	0	0	0	3,650,000	0	3,650,000	3,800,000	△ 150,00
消耗品費	1,768,000	788,800	27,200	0	2,584,000	0	2,584,000	2,669,500	△ 85,50
備品費	44,000	80,000	27,200	0	124,000	0	124,000	155,000	△ 31,00
情借料 「情料	6,713,000	1,342,600	95,900	0	8,151,500	0	8,151,500	9,469,000	△ 1,317,50
リース料	64,000	256,000	0	0	320,000	n	320,000	320,000	,517,500
諸謝金	595,000	229,500	25,500	0	850,000	0	850,000	1,810,000	△ 960,00
表彰費	1,280,000	320,000	0	0	1,600,000	0	1,600,000	1,460,000	140,00
涉外費	15,000	5,000	5,000	0	25,000	0	25,000	60,000	△ 35,000
委託費	10,071,900	108,300	108,300	0	10,288,500	0	10,288,500	10,355,000	△ 66,500
租税公課	1,600,000	0	0	0	1,600,000	0	1,600,000	1,440,000	160,000
支払負担金	11,061,600	1,508,400	3,184,400	0	15,754,400	0	15,754,400	15,190,400	564,000
雑費	737,000	187,000	11,000	0	935,000	0	935,000	930,750	4,250
管理費						12,875,200	12,875,200	12,250,350	624,850
給料手当				0	0	3,000,000	3,000,000	2,143,600	856,400
賞与引当金繰入額				0	0	290,000	290,000	194,600	95,400
退職給付費用				0	0	160,000	160,000	120,000	40,000
法定福利費				0	0	600,000	600,000	440,000	160,000
臨時雇用賃金				0	0	100,000	100,000	100,000	(
会議費				0	0	307,000	307,000	278,000	29,000
旅費交通費				0	0	2,398,200	2,398,200	2,341,200	57,000
通信運搬費				0	0	1,040,400	1,040,400	1,499,400	△ 459,000
印刷製本費				0	0	1,012,000	1,012,000	948,200	63,80
水道光熱費				0	0	100,000	100,000	100,000	
消耗品費				0	0	136,000	136,000	140,500	△ 4,50
備品費				0	0	76,000	76,000	95,000	△ 19,00
賃借料 リース料				0	0	1,438,500	1,438,500	1,671,000	△ 232,50
渉外費				0	0	80,000	80,000	80,000	A 25.00
渉外質 委託費				0	0	25,000 541 500	25,000 541 500	60,000 545,000	△ 35,000
租税公課				0	0	541,500 400,000	541,500 400,000	545,000 360,000	△ 3,500 40,000
支払い負担金				0	0	1,005,600	1,005,600	969,600	36,000
雑 費				0	0	165,000	165,000	164,250	750
経常費用計	90,791,500	17,162,800	5,170,500	0	113,124,800	12,875,200	126,000,000	121,766,000	4,234,000
当期経常増減額	▲ 9,505,500	▲ 12,434,800	▲ 2,170,500	18,542,500	▲ 5,568,300	5,568,300	0	▲ 3,000,000	3,000,000
. 経常外増減の部								Ī	
(1) 経常外収益 経常外収益	0	0	0	0		0	0	0	
経常外収益計	o	0	0	0		0	0	0	
(2)経常外費用	_	_	_	_				_[
経常外費用 経常外費用計	0	0	0 n	0 n		0 0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0		0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 9,505,500	△ 12,434,800	△ 2,170,500	18,542,500	△ 5,568,300	5,568,300	0	△ 3,000,000	
一般正味財産期首残高 一般正味財産期末残高	△ 9,505,500	△ 12,434,800	△ 2,170,500	18,542,500	△ 5,568,300	5,568,300	0	0 (3,000,000 ك	
指定正味財産増減の部									
当期指定正味財産増減額 指定正味財産期首残高							0	0	
指定正味財産期目残高 指定正味財産期末残高							0	0	
正味財産期末残高	△ 9,505,500	△ 12,434,800	△ 2,170,500	18,542,500	△ 5,568,300	5,568,300	0	△ 3,000,000	

資料 令和5年度 功労章推薦者一覧表

- 1. 功労章(栄章に関する規程 第5条)
 - (ア)この法人の運営に著しい功労のあった者
 - (イ)地区学連の運営に著しい功労のあった者
 - (ウ) 数次にわたり各種の競技会において、学生競技者の育成に技術的貢献のあった者
 - (エ) 国際的友好の増進のために功労のあった者

地 区	カナ 氏 名	(上段:職業等、中段:学連・大学関係役職、下段:その他)	区分
	カネコ ヒロユキ	勤務:無	
北 海 道	金子 博之		ウ
	3E 1 10 C	札幌陸上競技協会専務理事 北海道陸上競技協会理事	
		勤務:青山学院大学 教員	
関東	ウチヤマ ヨシヒデ 内山 義英	青山学院大学陸上競技部 部長	ウ
		勤務:城西大学 教員	
関東	クシベ セイジ 櫛部 静二	関東学連 評議員	ウ
	- मा भाषा	城西大学男子駅伝部 監督	
		勤務:高等学校 非常勤講師 (千葉県)	
関東	タナカ ヤスユキ 田中 康之	関東学連-競技審判委員	1
	四中、旅飞	日本陸上競技連盟 競技運営委員	
		勤務:早稲田大学職員	
関東	ハナダ カツヒコ	早稲田大学競走部駅伝監督	ウ
	花田 勝彦	上武大学駅伝監督等歴任/日本陸連男子長距離強化スタッフ	
		勤務:国立大学法人富山大学教育学部 教員	
北信越	フクシマ ヒロキ 福島 洋樹	北信越学連評議員、ヘッドコーチ4年 富山大学部長	1
	伸椅 什例	日本学連理事、強化委員、正会員	
		勤務:至学館大学 教員	
東 海	ウチダ トモコ 内田 智子	東海学連評議員、強化委員	ウ
	- Mm - 母2	至学館大学陸上競技部 コーチ	
		勤務:園田学園女子大学教員	
関 西	フジカワ ヒロヨシ 藤川 浩喜	関西学連:強化委員	ウ
	腺川 (日音	園田学園女子大学陸上競技部:監督	
		勤務:高校教員	
中国四国	サトウ ジュンイチ 佐藤 順一	中四国学連:評議員	1
	VI.AR //UR	美作大学陸上競技部:監督	
		勤務;沖縄国際大学 職員	
九州	ナカダ テツジ 仲田 哲二	九州学連:評議員	1
	тщ н	沖縄国際大学陸上競技部 監督・コーチ	
		勤務:無	
連合	フナハラ カツヒデ 船原 勝英	日本学連:指導者会議運営委員会-委員、倫理委員会委員長	7
		勤務: 曽根会計事務所-税理士	
連合	ソネーマサト	日本学連:財務委員	P
	曽根 真人		

資料 令和6年度 正会員

小林 聖子	緒方 信也	礒 繁雄	加藤 弘一	鯉川 なつえ	杉山 喜一
森川 弓月	阿部 北斗	船山 雄太	児玉 怜奈	月岡葵梨香	茂木 麻実
芝野 泰示	森田 琉生	原田 憲一	犬飼 佳寛	坂本 彩華	西山 在喜
平林里和子	津野 洋	伊東 浩司	津田 忠雄	野坂 勇真	山口 太陽
近藤 勲	笠置 悠真	丸林 奎斗	崎井優樹菜	安岡あき実	計29名
【入会】					
広川龍太郎	旭 来夏	金沢 太陽	出口 鈴葉	次呂久直子	長束 文
新井 瑞己	永井望ノ美	中井 柾希	烏山 修人	青戸 慎司	岡江 未莉
中西 巧	渋谷 俊浩	近藤 潤	岡 俊輔	中水 舞乃	前川 達也
藤岡奈乃子	前田 涼輔	小﨑康志郎	小賦 肇	横川 侑香	桑原 悠真
小坂 拓	佐々木 努	強化委員会	強化委員会	強化委員会	計29名

(学識経験者:54名)					
澤木 啓祐 山下 一	神尾 所屬 正朋 字康 上 明 字康 推 勇 惠 斯	松本 正之 蒲原 正之 原 長井 健 強化委員会枠 石井 紀子 曽根 真 清司	水井 純 東子 恵 佐 由 強化 長 食 後 店 日 市 本 上 市 <	工藤 洋泊文 安井 文生 今村 夏男 強化委員会枠 片岡 卡圭娟 大山崎 相手 横川 侑香	関根 春幸 細萱 拓 「切田 雅次 強化委員会枠 「関 隆史 鎌田 鎌田 浩信 桑原 悠真
(北海道学連:6名)					
安居院高志	広川龍太郎	大宮 真一	鈴木 克知	市原 恒太	旭 来夏
(東北学連:7名)					
長澤 光雄 出口 鈴葉	清水 茂幸	渡邉 信晃	冠木 雅守	高橋 涼	金沢 太陽
(北信越学連:7名)					
大森 重宜 中井 柾希	植田 平	藤瀬 武彦	福島 洋樹	福島 響希	永井望ノ美
(東海学連:9名)					
國枝 秀世 吉田 大介	烏山 修人 青戸 慎司	筒井清次郎 岡江 未莉	樋口 憲生	吉村 篤司	黒須 雅弘
(関西学連:13名)					
熊谷 匡昭 小倉 幸雄 中水 舞乃	北井 敏雄 小野 吉永	栗山 佳也 渋谷 俊浩	水瀬 安春 近藤 潤	伊東 輝雄 松田 愛香	中西 巧 岡 俊輔
(中国四国学連:8名)					
和田 正信前川 達也	宮田 浩文 藤岡奈乃子	佐竹 昌之	鶴崎 健一	小村 文乃	松村 萌花
(九州学連:8名)					
片峯 隆 小崎康志郎	岩元 慎一	片平 誠人	江川 未悠	松永 昴大	前田 涼輔

資料 2024-2025年度 専門委員会

総務委員会	障子 恵	(委員長)			
	岡田 晃	(副委員長)	河野 匠		
	佐治 由佳	(副委員長)			
	飯田 夏生	石井 智也	加藤 恭位	公文こころ	小坂 拓
	小林 亨輔	﨑井優希菜	佐々木 努	長井 健	中平 朋子
	帆高 歩美	本松 貫太			
強化委員会	山下 誠	(委員長)			
	安井 年文	(強化委員長補佐)			
	伊東 輝雄	(副委員長)			
短距離・ハードル部	苅部 俊二	安井 年文			
中・長距離部	大後 栄治	(部長)			
	酒井 俊幸	十倉みゆき	中野 孝行	松井 一樹	米田 勝朗
競歩部	今村 文男	(部長)			
	酒井 俊幸	藤崎 明	三浦 康二		
跳躍部	森長 正樹	(部長)			
	青木 和浩	小林 史明	吉田 孝久		
投てき部	岡田 雅次	(部長)			
	大山卞圭吾	佐々木大志	與名本 稔		
混成競技部	志賀 充	髙本 恵美			
地区学連ヘッドコーチ部会	大宮 真一	渡邉 信晃	苅部 俊二	福島 洋樹	眞鍋 芳明
	小倉 幸雄	鶴崎 健一	片平 誠人		
競技委員会	関根 春幸	(委員長)			
	青柳 智之	赤峰 俊彦	石井 公一	大朝 太	貝畑 四郎
	片岡 裕介	小谷野香澄	庄田 修司	関 隆史	長野 史尚
	羽田 雄一	福田 優衣	藤井 瞳	藤﨑 勇次	町田 紀子
	柳井ひとみ				
医事委員会	蒲原 一之	(委員長)			
	大山卞圭悟	(副委員長)	鎌田 浩史		
医事部	蒲原 一之	(部長)			
	今井 資	小川 健	金子 晴香	鎌田 浩史	清水 如代
	高梨 幹生	田中 健太	長澤 圭吾	割澤 高行	
トレーナー部	大山卞圭悟	(部長)			
	加藤基	武井 隼児	眞鍋 芳明	矢嶋 友美	
アンチ・ドーピング部	鎌田 浩史	(部長)	-Heren	West table of the off	L Net L Les
	石井 智也	大木 亮子	蒲原 一之	對崎利香子	山澤 文裕
III TALE II A	安岡あき実	山下誠			
財務委員会	増田 憲二	(委員長)	data de	Arr when the Are	et Leder dere
同數委旦人	障子 恵	曽根 真人	中松 圭	帆高 歩美	八木新一郎
国際委員会	益田 岳志	(委員長)			
泗木瓜 龙禾目 △	苅部 俊二	山下 誠			
調査研究委員会	安井年文	(委員長)	李本 徐曲	十九十十届	ヘフ 味る
	青木 和浩 杉田 正明	青山 亜紀 田原 陽介	遠藤 俊典 前村 公彦	大山卞圭悟 眞鍋 芳明	金子 晴香
	和田正信	山原 物月	刊行 公沙	與뀈 万叻	吉田 孝久
指導者会議運営委員会	木越 清信	(委員長)			
旧等任云城建古安只云	障子 恵	滝川 哲也	羽田 雄一	船原 勝英	真鍋 芳明
倫理委員会	船原 勝英	(委員長)	331TI WE	阳原 膀光	吳翔 万ツ
110/4 女兄ム	原 千広	(副委員長)			
	岡田 晃	蒲原 一之	障子 恵	関根 春幸	野寺 巧寛
	安井 年文	THE PARTY OF	1+1 10	NK TT	20 17 - 77%
不服申立委員会	置塩 正剛	(委員長)			
17871年及兄厶	荒木田裕子	木下 澄雄	宮嶋 泰子	山下 誠	
	MOVETURE 1	/1* 1 1½,AE	□ to M 242.1	H-1 1994	

資料 【第16回定時社員総会開催】について

【協議事項】

1. 第16回定時社員総会招集の件

①日 時:令和6年6月8日(土)14:00~

②場 所:TKP新宿カンファレンスセンター5C

2. 「第16回社員総会に出席しない社員は、書面または電磁的方法によって議決権を行使することができないこととする。」件

【定時社員総会予定議題】

【協議事項】

第1号議案 令和5年度(第11期)事業報告・決算承認の件

(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録承認の件

第2号議案:理事の任期満了に伴う改選に関する件 第3号議案:監事の任期満了に伴う改選に関する件

第4号議案:名誉会員の推薦について

第5号議案:その他

【報告事項】

1. 日本学連主催競技会の状況について

2. その他

資料 アンチドーピング規程違反に関して

2023年9月に開催いたしました天皇賜盃第92回日本学生陸上競技対校選手権大会(以下92日本IC)でのドーピング検査の際にアンチ・ドーピング規程違反が確認されました。

違反に関する内容は、下記のリンクの通り公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)のHPをご覧ください。 JADAの決定に基づき、当該選手や所属大学の成績が失効したことに伴い、92日本ICおよび2023年10月に開催いた しました第35回出雲全日本大学選抜駅伝競走(以下35出雲駅伝)について、下記の通り修正しました。

記

【天皇賜盃第92回日本学生陸上競技対校選手権大会】

○男子総合

旧)優勝 順天堂大学 94点 → 新)優勝 順天堂大学 95点

○男子トラック

- 旧)優勝 順天堂大学 63点 → 新)優勝 順天堂大学 64点
- 旧)7位 駿河台大学 18点 → 新)6位 駿河台大学 19点 ※東海大学と同率
- ※当該選手の所属大学から出場している他の選手の成績は失効とはなりません。

当該選手の記録を失効とし、各選手の順位は繰り上がるものとします。

【第35回出雲全日本大学選抜駅伝競走】

○総合成績について

当該選手の所属大学における記録は失効となります。そのため、他大学の順位は繰り上がるものとします。 ただし、次年度大会における各地区の出場枠に変更はございません。

○個人成績について

当該選手及び所属大学の選手の記録は失効とし、他大学の選手における区間順位は繰り上がるものとします。 ※上記2大会の修正リザルトは2月下旬、本連合HPに掲載いたしますのでご確認ください。

> 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構リンク 日本アンチ・ドーピング機構 | Japan Anti-Doping Agency (JADA) (playtruejapan.org)

> > 本連合HPリンク 公益社団法人 日本学生陸上競技連合 (iuau.jp)

資料 職務執行の状況報告

月 日	行 事 (報告內容)
12月16日 (土)	第62回理事会 於:TKP新宿カンファレンスセンター
12月22日(金)	日本学生ハーフマラソン選手権大会対策ミーティング ※オンライン会議にて
12月26日 (火)	日本学生ハーフマラソン選手権大会/立川市協議 於:立川市/体育協会
12月26日 (火)	指導者会議運営委員会 ※オンライン会議にて
12月27日 (水)	2023全日本大学女子選抜駅伝/交通対策会議 於:富士市教育会館
12月29日(金) ~30日(土)	2023全日本大学女子選抜駅伝競走開催 於:富士市·富士宮市
令和6年	
1月12日(金)	2023全日本大学女子選抜駅伝競走 実行委員会事前会議 於:日本学連事務局
1月15日(月)	令和6年度日本スポーツ振興センター「くじ助成」申請
1月17日(水)	EXPO駅伝 ミーティング ※オンライン会議にて
1月18日(木)	登録に関する説明会 ※オンライン会議にて
1月19日(金)	全日本大学駅伝マーケティングミーティング(対 ADK) 於:日本学連事務局
1月25日(木)	強化委員会/中長距離ブロックミーティング ※オンライン会議にて
1月26日(金)	2023全日本大学女子選抜駅伝競走事務局会議 於:日本学連事務局
1月27日(土)	2024年度JAAF公認コーチ制度に関するミーティング 於:日本学連事務局
1月27日(土)	第1回日本学連役員候補選出会議 於:日本学連事務局
1月29日(月)	長谷工グループ本社・社長・会長訪問 於:港区/長谷工コーポレーション
1月31日(水)	日本学連次年度カレンダー会議 ※オンライン会議にて
1月31日(水)	令和6年度日本スポーツ振興センター「基金助成」申請
2月1日(木)	2023全日本大学女子選抜駅伝競走実行委員会 富士市教育プラザ+オンライン
2月2日(金)	強化委員会 ※オンライン会議にて
2月2日(土)~4日(日)	丸亀ハーフマラソン視察 於:丸亀市
2月6日(火)	日本グランプリシーズ協議会(JAAF) ※オンライン会議
2月7日(水)	読売テレビ/2024年度アスリートチャンネルライブ配信に関する打ち合わせ 於:日本学連事務局
2月8日(木)	JADA/日本陸連/3者会議(ドーピング違反対応) ※オンライン会議にて
2月8日(木)	財務委員会(2024年度予算編成会議) ※日本学連事務局及びオンラインにて
2月9日(金)	日本陸連/登録業務説明会 ※オンライン会議にて
2月9日(金)	強化委員会 ※オンライン会議にて
2月10日(土)	日本学連/ドーピング違反に関するミーティング ※オンライン会議にて
2月12日(月)	JAAF全国運営者会議 ※オンライン会議にて
2月13日(火)~20(火)	2024世界大学クロスカントリー派遣 於:マスカット
2月15日(木)	医事委員会/アウトリーチ計画について ※オンライン会議にて
2月15日(木)	富士山女子駅伝/交通対策会議 於:富士市教育プラザ
2月16日(金)	(2024年)実学対抗陸上に関する2者会議 ※オンライン会議にて
2月17日(土)	日本ICに関する総務・競技委員会ミーティング ※オンライン会議にて
2月19日(月)	日本IC運営に関する対策会議 ※オンライン会議にて
2月22日(火)	倫理委員会(規程改訂に向けた検討会) ※オンライン会議にて
2月24日(土)	日本学生ハーフ・主任者会議 於:泉体育館(立川市)
2月25日(日)	クロカン日本選手権(日本学連/共催) 於:福岡市
2月26日(月)	指導者会議運営委員会 ※オンライン会議にて
2月26日(月)	2024年度・ミズノ株式会社契約に関するミーティイング 於:日本学連事務局
2月27日(火)	第2回日本学連役員候補選出会議 ※オンライン会議にて
2月27日(火)	企画委員会 ※オンライン会議にて
2月29日(木)	日本陸連・実業団・学連/ドーピング違反対策会議 於:日本陸連事務局
3月1日(金)~2日(土)	第59回幹部役員研修会 於: TKP新宿カンファレンスセンター
3月1日(金)~2日(土) 3月2日(土)	〒
3月2日(土)	第463回理事会 於:TKP新宿カンファレンスセンター
3月2日(土)	第69回指導者会議 於:TKP新宿カンファレンスセンター

資料 2023年度 日本学生記録

2023年(令和5年)に誕生した日本学生記録

【男子】						
種目	記録	氏名	大学名	月日	競技会名	会場
5000m	13分00秒17	リチャード・エティーリ	東京国際大学	5/4	第34回ゴールデンゲームズinのべおか	延岡市西階総合運動公園陸上競技場
10000m	27分06秒88	リチャード・エティーリ	東京国際大学	4/22	第299回日本体育大学長距離競技会	日本体育大学陸上競技場
110mH	13秒04	村竹ラシッド	順天堂大学	9/16	天皇賜盃第92回日本学生陸上競技対校選手権大会	熊谷スポーツ文化公園陸上競技場
3000mSC	8分09秒91	三浦 龍司	順天堂大学	6/9	ダイヤモンドリーグ (DL) パリ大会	シャルレティ競技場
【女子】						
種目	記録	氏名	大学名	月日	競技会名	会場
10000mW	44分27秒72	柳井 綾音	立命館大学	6/10	第4回順天堂大学競技会	順天堂大学陸上競技場
ハンマー投	65m33	村上 来花	九州共立大学	4/1	第1回九州共立大学チャレンジ記録会	九州共立大学陸上競技場

2024年(令和6年)に誕生した日本学生記録

【男子】						
種目	記録	氏名	大学名	月日	競技会名	会場
20km	56分36秒	リチャード・エティーリ	東京国際大学	2/3	第76回香川丸亀国際ハーフマラソン	香川県丸亀市
ハーフマラソン	59分32秒	リチャード・エティーリ	東京国際大学	2/3	第76回香川丸亀国際ハーフマラソン	香川県丸亀市
フルマラソン	2時間06分18秒	平林 清澄	國學院大學	2/25	大阪マラソン 2024	大阪府大阪市
【女子】						
種目	記録	氏名	大学名	月日	競技会名	会場
10kmW	42分58秒	柳井 綾音	立命館大学	1/1	第72回元旦競歩大会	東京・神宮外苑絵画館周回コース

第49回 学生幹部役員研修会

常任幹事 村上 奈穂

1. 会議名:第49回幹部役員研修会

2. 期 日:2024年3月1日(金)から3月2日(土)

3. 場 所: T K P 新宿カンファレンスセンター4 C

4. 派遣学生幹事(敬称略):計27名

三浦 拓也、横川 侑香、桑原 悠真、村上 奈穂、市原 恒太、橘 あぐり、高橋 涼、出口 鈴葉、金沢 太陽、次呂久 直子、新井 瑞己、長東 文、福島 響希、永井 望ノ美、中井 柾希、岡江 未莉、西田 翔、鳥山 修人、松田 愛香、岡 俊輔、中水 舞乃、松村 萌花、藤岡 奈乃子、江上 知輝、松永 昂大、小崎 康志郎、前田 涼輔

5. 総 括

今回の学生幹部役員研修会は、昨年と同様に対面で2日間かけて開催いたしました。

アンチドーピングについて、救急対応、公認競技 会申請および記録公認申請の手順や注意事項、2024 競技規則修改正について、学連登録の周知徹底な ど、多くの分野について研修を行いました。

また、座学での研修会に加え、「競技会における迷惑撮影に対する取り組み」をテーマに各地区学連の現状や対策案の発表・意見交換も行いました。発表が終了した後には、他地区で行われている対策を自分の地区でも導入したいという感想も多く上がりました。本連合でも昨年から迷惑撮影の啓蒙活動に積極的に取り組んでいる中で、意見を交換し合える場を設けられたことは非常に意義のあることだと感じました。

コロナ禍の影響で長年、オンライン開催が続いていた本研修会ですが、今回の研修会では各地区学連の交流が活発に行われ、非常に有意義なものとなりました。今後も各地区学連同士連携し、高め合いながら、学生陸上競技界の向上と進展に努めていくよう精進してまいります。

「会議報告」 令和5年度 第69回指導者会議

・開催日

令和6年3月2日

・開催方法

対面およびオンライン会議

・会議テーマ

学生陸上競技者および陸上競技会の国際化

・会議プログラム

- 1. FISUワールドユニバーシティゲームズ(WUG) 「2021/成都」の報告およびディスカッション・質疑
- 2. ワールドランキングコンペティションへの申請 上の留意点およびディスカッション・質疑

・演者

プログラム1

山下誠氏(本連合強化委員長・常務理事、WUG 陸上競技チームリーダー)

安井年文氏(本連合強化委員長補佐・理事、WU G陸上競技監督)

プログラム2

関根春幸氏(本連合競技委員長・常務理事、日本 陸上競技連盟競技運営副委員長)

・司 会

船原勝英氏(本連合指導者会議運営委員・倫理委員会委員長)

本稿では会議の概要について報告する。

【プログラム1】

・大会結果について

山下) 11個のメダルを獲得し、投擲種目が全種目 入賞というこれまでにない快挙であった。ロード 競技でも過去の大会から継続してメダルを獲得す ることができた。メダル獲得数は前回大会の19個 には届かなかったものの、内容としては躍進の見 られた大会だった。

ワールドランキング制度が始まり、WUGも各国の国内選手権と同等レベルであるWRkカテゴリーBに設定されており、かなりポイントが高い位置づけとなったことで、これまでより有力な選手が増え、大会の質が変わってきていると感じた。

安井) 今回の選考では、メダル、入賞のラインを引いて選考を行った。その結果、41選手中36選手が入賞(リレー含む)という成績を残すことができた。これは、今回の選考の成果であるのではないかと考えている。

・環境について

安井)スタッフは計15名の派遣であった。これは、 選手の人数を考えると少ないというのが実情で ある。しかし、そんな中でもスタッフの献身的な 働きがあり、それが成果に現れているのではな いかと考えている。現地の設備は整っており、快 適に過ごすことができた。選手村となっていた 成都大学には2つのトラックが整備されており、 選手村の中で調整を済ませることができた。

・今後の強化について

安井) WUGを今後の強化に結びつけられるようにしていきたい。特に、U23を超えた後の強化について、日本陸連と日本学連が組織としてのつながりを作れたら良いのではないかと感じている。また、各大学の壁を越えて、他大学の選手と切磋琢磨しながら強化を目指すような交流ができるようになると、学生陸上競技界としての強化も図ることができるのではないか。指導者は卒業後の活躍を念頭において指導していくことはもちろんのことであるが、大学生のうちから五輪や世界陸上などで活躍できる選手が多く出てくると、学生陸上競技界にとっても刺激になるのではないだろうか。

・ディスカッション、質疑応答

質問:他大学の選手を預かることについて意識していることはあるか。

- 山下) 帯同人数が限られているため、各選手自身ができることできないことについて、事前に指導者の方とコミュニケーションを図るとともに、帯同するスタッフにもその情報を共有するようにしている。
- 安井) 選考後にケガをしてしまう選手もいる。その場合、選手の再選考ということも考えなければならないが、選ばれた選手に経過を聞くと良いことしか言わないことがあるため、指導者にも状況を聞き、大丈夫だという確約をとりながら進めている。

質問:今回は学生幹事がスタッフの1人として帯 同したが、どのような役割を求めたか。

24 会議報告

向上と進展会報170.indd 24 2024/05/07 14:48

安井)人数の少ない貴重な帯同スタッフの1人であるため、我々の求める指示に対して指示通りに動いていただいた。その中で、今回の帯同スタッフの中で数少ない女性スタッフであったことや、選手と同年代で選手に近いスタッフであったことで、大人のスタッフには話しづらいことを話せる貴重な存在となっていたため、重要な役割を果たしてくれたと感じている。

【プログラム2】

・ワールドランキング (WAランキング) について

関根)まず、パリ五輪を例とする。参加するためには参加標準記録を超えることとWAランキングポイントで上位にいることの2通りがある。その比率は5:5となっている。参加標準記録はとても高いレベルの記録が設定されており、標準記録突破者数が極端に少ない種目もある。突破者数が少なければその分WAランキングポイントで拾われる競技者が増えてくる。

ポイントは定められた順位スコア (Placing Score) と結果スコア (Result Score) の合計であ るパフォーマンススコア (Performance Score) によって付けられ、パフォーマンススコア上位 5つの平均値(長距離は3つ、マラソンは2つ) が選手のポイントとなる。順位スコアは大会の カテゴリーによって獲得できる順位やポイント が異なっており、カテゴリーは大会のグレード によって主にA~Fに分けられている(五輪や 世界陸上、ダイヤモンドリーグなどはさらに上 位のカテゴリーに分けられる)。結果スコアは、 結果(記録)に対してポイントが与えられる。記 録有効期間は基本的に1年間となっており、ス コアは各種目によって定められた基準に沿って 算出される。また、風力等の条件によって、ポイ ントが基準スコアからプラスやマイナスになっ たり、世界記録でボーナスの加算がされたりす るようになっている。また、最上位カテゴリーに 位置する五輪や世界陸上などでは、準決勝の段 階からランキングポイントが算出され、準決勝 の順位や結果からポイントが入るようになって いる。

・申請上の注意

関根)まず注意する点が、開催回数を年度ごとに リセットしているのか否かである。年度ごとでリ セットせず開催回数を増やしている場合は大会 の識別に問題はないが、リセットする場合は前年度との識別のために開催年を入れる必要がある。 開催申請は60日前に日本陸連での最終審査まで終えていなければいけない。また、申請料は1大会4000円である。

WRkはWAルールで行わなければならず、WAルールで行われなければ国としてペナルティの対象となる。ペナルティの例としては、国内選手権以外はWRkとして認めない、WRkでは国外からWAレフェリーシルバー以上を呼ばなければならないなどがある。

WAルールで特に注意しなければならないのが投てき種目である。必ず1本ずつ測定し、投てき物はWAに認証されたものでなければならない。

2025年度から、WRkの開催にはWAレフェリーブロンズ以上が審判長や主任に必要となる予定である。それを見据えて、今後500人規模でのWAレフェリーブロンズの認定試験を行う予定である。WAは記録の信びょう性に対して神経質になっているため、適切に審判員を配置して正しいルールで運営する必要がある。

記録の申請は24時間以内に行わなければならない。記録はすべて英語表記であり、アルファベットでは同姓同名が出てくるため、生年月日の情報が個人の識別のために大切である。24時間以内という期限があるが、焦って誤ったデータを提出しないように、正しいデータを提出することを一番に心掛けてほしい。

・ディスカッション、質疑応答

質問:2025年からWAレフェリーブロンズ以上が 必要とのことだが、その情報はいつ頃正式に通 達されるのか。

関根)来年度の競技会申請開始までに日本陸連から学連を通じてお伝えする。

質問:WAレフェリーブロンズの認定試験の対象 者はどのように決まるのか。

関根)各都道府県陸協からの推薦者が対象となる。 質問:学連からの推薦者はないという認識で間違いないか。

関根) その認識で間違いない。

令和5年 日本学生陸上競技連合

会員について(2023年度) 今和6年2月5日現在

正会員 135名

普通会員 19,497名

日本学生陸上競技連合 普通会員の各月変遷 単位:人

	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中四国	九州	月合計
年度前	319	618	5, 279	586	1, 137	2, 983	1, 143	959	13, 024
4月	217	187	2,135	249	269	186	462	363	4, 068
5月	89	98	550	113	143	297	94	128	1, 512
6月	10	34	164	33	47	106	48	57	499
7月	0	5	65	3	30	48	11	17	179
8月	4	6	24	0	16	10	7	4	71
9月	5	2	34	8	3	10	7	8	77
10月	0	3	16	10	3	1	3	0	36
11月	0	1	3	0	1	14	0	0	19
12月	0	0	5	0	1	0	0	0	6
1月	0	0	7	0	0	0	1	0	8
2月	0	0	0	0	0	0	1	0	1
退会者	0	0	0	0	-1	-1	-1	0	-3
合計	644	954	8, 282	1,002	1, 649	3,654	1, 776	1, 536	19, 497

前回理事会承認数 (8/31時点での会員数=19,250) 增員数 247名

【参考:普通会員数の推移】

単位:人

年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中国四国	九州	合計	前年比	5年前比	10年前比
2023	644	954	8, 282	1,002	1, 649	3,654	1,776	1, 536	19, 497	580 ↑	-1, 245	923
2022	597	854	8,046	942	1,639	3,580	1,735	1, 524	18, 917	352 ↑	-1,866	743
2021	560	890	7,883	915	1,667	3,517	1,654	1, 479	18, 565	391 ↑	-2, 132	687
2020	556	896	7,704	914	1,610	3, 419	1,600	1, 475	18, 174	-2,122 ↓	-1, 916	933
2019	702	979	8,373	996	1, 938	3, 764	1,787	1,757	20, 296	-446 ↓	840	3, 444
2018	726	1,017	8,487	1,024	2,073	3,808	1,832	1,775	20,742	-41 ↓	2, 168	4, 085
2017	749	973	8,588	1,009	2,098	3, 758	1,853	1, 755	20, 783	86 ↑	2,609	4, 450
2016	756	933	8, 578	1,009	2,088	3,689	1,884	1,760	20,697	607 ↑	2,819	4, 483
2015	705	943	8, 221	1,021	2,007	3, 547	1,904	1,742	20,090	634 ↑	2,849	4, 269
2014	680	929	7,981	965	1,936	3, 507	1,843	1,615	19,456	882 ↑	2,604	4, 230
2013	628	914	7, 547	903	1,835	3,383	1, 781	1, 583	18, 574	400 ↑	1, 917	3, 991
2012	640	910	7,273	832	1,826	3, 360	1,736	1, 597	18, 174	296 ↑	1,841	3, 969
2011	711	933	7,065	834	1,756	3, 236	1,723	1,620	17,878	637 ↑	1, 664	3, 929
2010	688	919	6,792	821	1,686	3, 106	1,653	1,576	17, 241	389 ↑	1, 420	3,374
2009	715	878	6,641	879	1,611	3,000	1,630	1,498	16, 852	195 ↑	1,626	2,920
2008	754	952	6,626	822	1,480	2,923	1, 598	1,502	16,657	324 ↑	2,074	
2007	651	977	6, 497	799	1, 426	2,870	1,520	1, 593	16, 333	119 ↑	2, 128	
2006	651	1,005	6,452	743	1, 493	2,829	1, 471	1,570	16, 214	393 ↑	2, 265	
2005	636	1,041	6, 258	763	1, 429	2,728	1, 441	1,525	15,821	595 ↑	1,954	
2004	599	984	6, 118	751	1, 321	2,605	1,410	1, 438	15, 226	643 ↑	1,294	
2003	587	885	5,864	749	1, 257	2, 519	1,311	1, 411	14, 583	378 ↑		
2002	604	841	5,663	755	1, 184	2,478	1, 259	1,421	14,205			

【2023年度】

2023年月	芰	男子	女子	合計	前年比	比率(%)
北海道	首	495	149	644	47	3.3
東は	Ł	730	224	954	100	4.9
関列	ŧ	6, 421	1,861	8, 282	236	42.5
北信走	戉	763	239	1,002	60	5.1
東海	毎	1, 193	456	1,649	10	8.5
関	5	2,578	1,076	3,654	74	18.7
中国四国	E	1, 342	434	1, 776	41	9.1
九 か	W	1, 165	371	1, 536	12	7.9
全体	本	14, 687	4,810	19, 497	580	

26 その他

| **令和6年度 賛助会員** (5月7日現在 五十音順、敬称略)

ご入会ありがとうございました

阿保 雅行 安藤 好郎 入江 毅 金子今朝秋 櫻井 孝次 田中 淳浩 東川 安雄 山崎 健

賛助会員募集中

この法人の目的及び活動に賛同し賛助する個人又は団体の方は、是非ご検討ください。

〈年会費〉 賛助会員 ¥10,000 (1口)

※年会費は毎年納入していただく必要があり、年度内(3月31日)まで有効となります。 ※本法人への賛助会費は寄付として扱われ、所得税等の納税控除の対象となります。

〈特典〉 ・会報への氏名・団体名の記載

・天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会への無料入場

〈入会手続きについて〉

- ①申込書(個人・団体)に必要事項を記入し、本法人へ郵送又はFAXしてください。
- ②本法人の指定銀行口座へ、年会費をお振込み願います。
- ③ご入金が確認でき次第、本法人の賛助会員として登録させていただきます。

何かご不明な点がございましたら、下記事務局までお問い合わせください。

[発行所] 公益社団法人 日本学生陸上競技連合 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階 TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

|編|集|後|記|

会報第169号(令和6年1月15日発刊)以降の事業では、令和6年3月2日に第63回理事会が開催されました。主な議題としては、令和6年度の事業計画の承認、令和6年度の事業予算の承認、特定費用準備計画・特定資産についての承認、令和6年度主催競技会要項の承認、令和5年度栄章受章候補者の承認、令和6年度正会員入会の承認、令和6・7年度の専門委員会についての承認、令和6・7年度の専門委員会についての承認、令和6・7年度次期理事・監事候補者についての承認、第16回定時社員総会開催の承認、2023年度開催日本インカレ及び出雲駅伝の成績変更についての承認が協議事項でした。また、報告事項では2024世界大学クロスカントリー(オマーン・マスカット)について報告がありました。

主催競技会は例年とほぼ変わらない日程ですが、天皇賜盃第93回日本学生陸上競技対校選手権大会は、令和6年9月19日(木)~9月22日(日)に神奈川県川崎市の等々力競技場での開催で、4日間開催となりました。これは複数の種目に出場する選手の故障リスクを抑えるためと、長距離種目(特に10000 m、10000 m競歩)の熱中症対策を念頭においた日程になりました。

また、他の競技会の日程で大きく変わったことは3月に立 川シティハーフマラソンと併催していた日本学生ハーフマラソン選手権大会が、毎年2月上旬に開催される香川丸亀国際ハーフマラソンと併催することが承認されました。これは現 場(指導者・選手等)から時期的に早くできないか、記録が出るコースでできないか等の要望が寄せられ、関係者で慎重に協議し、その結果を理事会で諮ったものです。

2023年度の主要競技会の残り3大会、3月10日には第27回日本学生ハーフマラソン選手権大会(東京・立川)、3月17日には第27回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会(島根・松江)、同日には第18回日本学生20km競歩選手権大会(石川・能美)が無事終了しました。この3大会については、次回はFISUワールドユニバーシティゲームズ(ドイツ/ライン・ルール)の日本代表選考会になります。

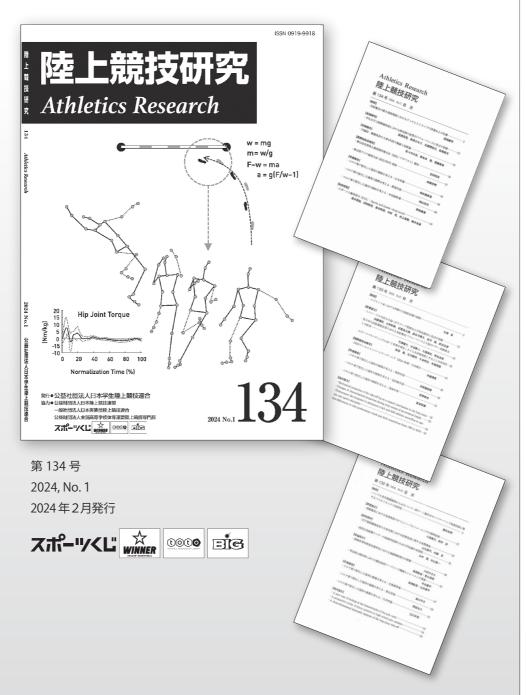
先日、2024富士山女子駅伝(静岡・富士宮~富士)の最終 実行委員会が終わり、出雲駅伝(島根・出雲市内)全日本大 学女子駅伝(愛知・熱田神宮~三重・伊勢神宮)、全日本大 学駅伝(宮城・仙台市内)の実行委員会が始まろうとしてい ます。学生幹事諸君は駅伝関係に加え、6月開催の日本学生 個人選手権に向けて準備を進めています。

新型コロナウイルス感染症は5類に移行して、感染者のことはあまり聞かなくなりましたが、完全には収束していないようです。その中で、日本学生陸上競技連合は用心に用心を重ね、また皆様からいろいろご意見をお伺いしながら粛々と令和6年度の事業計画を進めていくつもりです。今後とも向上と進展を目指したいと存じます。

(副会長/専務理事 永井 純)

その他 27

「陸上競技研究」 購読のご案内



公益社団法人日本学生陸上競技連合は機関研究誌『陸上競技研究』を発行しています。 購読会員として入会ご希望の方は,年会費(6,000円)を下記へ郵便振替にてご送金く ださい。

口座記号番号 00190-4-142923

加入者名(㈱陸上競技社・陸上競技研究)

通信欄に「何号から 1 年間」と必ず明記してください。 バックナンバーについては(株)陸上競技社 (TeLO3-5215-8881) にお問い合わせください。 ※第135号(2024, No2) は2024年6月発行予定です。

(株) 陸上競技社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-2-6 TEL. 03(5215)8881 FAX.03(5215)8882 http://www.rikujyokyogi.co.jp

向上と進展会報170.indd 28 2024/05/07 14:48